

【音更】雑穀卸などの山本忠信商店（山本英明社長）は、パンや麺用のミックス粉製造に進出する。町IC工業団地内の同社敷地に製粉工場を新設する。十勝産小麦と豆の粉を混ぜることなどで付加価値の高い粉を製造し、全国のパン店向けなどに小ロットにも対応した商品を販売する。



現在の製粉工場に加えてミックス粉工場が新設される工業団地内の敷地

パン・麺用 十勝産小麦で

同社は2011年、管内唯一の製粉工場「十勝☆夢mill（ミル）」を建設し、道産小麦の自社製粉を開始。業務用が主だが、一般向けのパン用強力粉も製造、販売している。小麦粉に粉乳や食塩などを配合したミックス粉

には、取引のあるパン店などからニーズがあり、新事業を立ち上げることにした。

同社の契約農家の会「チホク会」（山川健一会長）との連携や、新工場による生産体制を整備し、より加工度の高いミックス粉を製造、販売する。豆類などの農産物の粉末を使ったパンやパンケーキ、菓子などの研究、開発も行う。

新設する製粉工場は、十勝☆夢millと同じ敷地内で、事業費は約4億円。500グラムの小ロットにも対応した製造ラインを設ける。生産量は年数百トン。今年6月ごろに着工し、年内の完成を予定。売上高は年約4億円を目指す。

商品は卸売りのネットワークを生かし、海外展開も含めた販路開拓を行う。高付加価値の商品販売により、チホク会の生産者には収益や生産技術、生産意欲の向上が見込まれる。同社は「十勝の農産物の加工度を上げるのは大きなテーマ。今回の事業を起爆剤に食品加工メーカーとの連携も強めたい」としている。

ドローン飛行 農家らが見学 幕別町農業振興公社

2017年2月24日



ドローンの説明を聞く農業者ら

【幕別】町農業振興公社（町新和）で21日、農業散布用の小型無人飛行機「ドローン」の模擬飛行が行われ、農家らが見学した。

同公社のまくべつ農村アカデミーで学ぶ若手農家や後継者の他、一般の農業者も含め21人が参加した。

講師は農業資材販売の北海道セイカン工業（札幌市）帯広支店（町札内春日町）の、渡邊勇人営業1課長らが務めた。同支店は農林水産航空協会（東京）指定のドローン教習所となっている。

同公社では同支店社員らがドローンの構造や仕組み、購入までの流れ、飛行に必要な教習などを説明。実際に野外でドローンを飛ばし、渡邊課長らが効率的な散布や、薬液のドリフト（目的外飛散）を防ぐ飛行方法、機器の扱いなどを解説した。

参加した農家からは「移動時に折り畳むことはできるか」「維持管理費はどれくらい掛かるか」などの質問が出ていた。